



第41回CITRA (国際文書館評議会 円卓会議) マルタ大会報告

神戸大学 佐々木和子
Kazuko SASAKI

1) マルタ大会概要

テーマ：「21世紀のアーキビストを考える：
教育・研修の新戦略」

日程：2009年11月17日-21日

場所：インターコンチネンタルホテル（マルタ共和国）

参加：約76ヶ国 約230人

日本からの参加者：A会員（国立/連邦公文書館）国立公文書館から高山正也館長はじめ3名。

B会員（専門職団体等）全国歴史資料保存利用機関連絡協議会から代表1名。日本アーカイブズ学会は不参加。

CITRAの開催に合わせ、ICAの各種部会が開かれた。筆者はSPA（国際文書館評議会専門家団体部会）の運営委員会と総会に参加した。

2) SPA (Section for Records Management and Professional Associations国際文書館評議会専門家団体部会)

CITRAの開催に合わせ、運営委員会と総会が開催された。参加者は、アンリ・ツバー（委員長、フランス）、フレッド・ファン・カーン（副委員長、オランダ）、アンドリュウ・ニコルス（事務局、イギリス）、ジョアン・ボアダス・イ・ラセット（スペイン）、ベルント・フレデリクソン（スウェーデン）、トルディ・ハスキャンプ・ピーターソン（アメリカ）、コリン・マキーン（オーストラリア）、ミハル・ヘンキン（イスラエル）、佐々木和子（日本）。なお、カナダからクロード・ロベルトが新委員

月日	午前	午後	夜
11・14	日本出発		現地到着
11・16		SPA運営委員会	SPA運営委員会夕食会
11・17	フリー	フリー	開会式
11・18	全体会1分科会	全体会2分科会	巡見（マルタ国立公文書館等）
11・19	全体会3分科会	全体会4分科会 まとめ	夕食会
11・20	SPA総会	CITRA総会	国立公文書館公開講座
11・21	市内見学、巡見（国立図書館等）	フリー	フリー
11・22	帰国準備	現地出発	（機内泊）
11・23		日本帰着	

として参加した。

以下に委員会で決められた内容をいくつか記しておく。まず“Section for Records Management and Professional Associations”の表記が、“Section of Professional Associations”（仏語 Sections des Associations Professionnelles）に改めるよう代表委員会に提案することが了承された。略称はSPAで変更はない。SPAはICAウェブサイトのための開発のパイロットであるように依頼された。コリン・マキーンは新しいウェブサイトに移すために協力した。ウェブサイト上でどこまで公開するかについて議論がおこなわれ、「部会運営文書—SPA委員のみ、ガイドライン—ICA会員のみ、

SPAに関する一般情報—一般公開」の三段階に公開することが同意された。

また、2007年以来議論されてきた「世界アーカイブ宣言」が完成し、三か国語(英・仏・西)で印刷されたことが報告された。フランス語訳、スペイン語訳に間違いがみつき、すぐに修正されたが、翻訳には、ICA Language委員会にまかすのが必要であり、望ましいことが判明した。また、この案件に関し、多大な努力を払ったコリン・マキーンに謝意が述べられた。

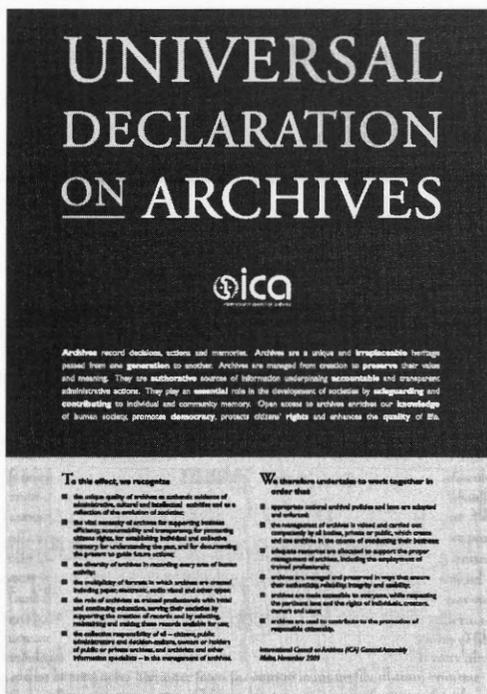


SPA 運営委員会

3) 円卓会議概要

全体会4、分科会12が開かれ、合わせて約40の報告がおこなわれた。分科会は、3会場に分かれて開催され、参加者の興味に応じて報告を聞くことができた。今回のテーマが、「教育、研修」を中心としていることから、教育研修者を教育研修するための新ビジョンと新しいツール、専門職団体による資格認定(フランスアーキビスト協会)や香港におけるアーカイブズ教育プログラム、遠隔教育(distance learning)など研修教育プログラムに関するものが多かった。

最も興味深かったのは、全体会での博士課程学生による「デジタル世代からみたアーカイブ学、記録—古代人と近代人との新しい議論のために(Archival studies as seen by digital natives: toward a new debate of the ancients vs the moderns?)」と題する発表であった。生まれた時からデジタル環境のなかで育った世代が、アーキビストとして教育を受け、仕事に



世界アーカイブ宣言

つくようになってきた。その世代自身から、21世紀にふさわしいアーキビストになるためには何が必要か、どのような教育が必要か問いかけられたのであった。

CITRAの終了後、2009年12月2日付けで、事務局から「conclusion(まとめ)」が発表された。

<http://www.ica.org/en/2009/12/02/citra-malta-2009-conclusions>。

11月20日(金)午後、年次総会が開かれた。年次総会では、分担金のワーキンググループの報告がおこなわれ、現在、分担金はカテゴリーA(国を代表する文書館)がほとんど(約80%、6公文書館32%)とカタよっており、改正が必要な状況であると報告された。

総会で、一番印象に残ったのは、SPAで合意され、三国語訳ポスターまで配布された「世界アーカイブ宣言」案が採決されなかったことである。

他の国際宣言との整合性とかが問題となり、白熱した議論のあと、投票がおこなわれた。投票の結果、今回の総会では宣言案の基本的な方針のみが承認され、正式承認を来年

の総会に持ち越すことになった。

例年CITRAでは、決議案の採択をおこなってきたが、今年度はICAの各組織に向けて今後の取り組みを促す勧告を出すにとどめた。

SPAへの勧告では、メンバーから意見が出されていたのも印象に残った。この勧告が、今後どのような扱いになっていくのか見守りたい。

CITRA MALTA 2009 まとめ (抜粋)

・CITRAの参加者は、研修・教育での共同開発に熱心であった。報告者や参加者は、「インターンシップと交流、オンライン資源の共有、メンタリング・プログラム（職場内指導教育プログラム）、共同研究」の分野で潜在的な連携の可能性について言及した。

・通信教育は、質が高く、従来の学習モデルとも共存しており、個人に対してと同様に、発展途上国々により良い学習機会を提供している。

・21世紀の教育・研修担当者は、二つの大きな課題に直面している。1つは次のことを研修生たちに身につけさせなければならないこと。

①職場環境の急速な変化、この変化は業務でツールとして使っているテクノロジーと同じである ②デジタル環境において、電子記録を歴史的視点を維持しながら管理すること ③業務プロセスを理解すること ④プログラムや業務を推進するために必要な対人関係能力を育成すること ⑤言い伝え・伝説の記録者の役割を果たすこと。

2つ目は、デジタルツールを使用して教えるには教育者自身専門能力を開発しなければならないという課題である。

・アーキビストの教育者、専門職団体、雇用者組織の間に、アーキビスト養成プログラムの正式認定課程や非公式のものを通じて影響をあたえ、初期教育、継続教育、専門能力開発に効果を及ぼしているフィードバックのサイクルがあるのが明らかになった。その結果、教育研修カリキュラムの絶え間のない見直しや更新がおこなわれている。